



さとのかぜ NO. 148

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

9月号 2007年9月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

昆虫たちの住環境は今！



<『トンボの沼のトンボたち』より>

◇温暖化とトンボの北進で競合が！

地球規模の温暖化が進み、人の生活にも大きな影響が出始めています。いわんや昆虫たちの生活範囲にも変化が出てきており、特に南方種の北進が顕著になってきているようです。トンボでも台湾ウチワヤンマ、リュウキュウベニイトトンボ、ネキトンボなどがその例として知られています。台湾ウチワヤンマは、その名のよう
に台湾などに見られる種で、我が国では、沖縄から四国南部にのみ分布していた
ようですが、現在では静岡県から神奈川県あたりまで北上しているそうです。また、
リュウキュウベニイトトンボは、鹿児島市周辺を境に、それより北に分布しているベニ
イトトンボと住み分けていたようですが、今、リュウキュウベニイトトンボが九州を北
上して、ベニイトトンボを駆逐くちくしつつあるということです。台湾ウチワヤンマも
ウチワヤンマという近縁種が九州、四国、本州にも生息しており、今後両者の競合が
心配されているそうです。<参考文献 『トンボ入門』 新井 裕著 どうぶつ社>



8月のセンター行事

・『ハスの観賞会（第3回）』（5日）

・『夏の星座を見てみよう』（11日）

・『トンボの沼のトンボたち』（18日）

《『ハスの観賞会』》

◇ハスの数種が復活の兆し！

前号で紹介しましたようにセンターのハス田の花ハスたちは、今年生育状態が極めて良くなり、心配して見守ってまいりましたが、8月に入ってから、ハス田の東側の周辺から立葉が出てくるようになり、現在は花芽が数多く見られるようになりました。その多くは大賀ハスのようですが、瑞光蓮や唐蓮、白繡蓮、白光蓮、即非蓮、原始蓮なども見られ、来年度の再起への期待が持てるようになりました。（渡邊美利）

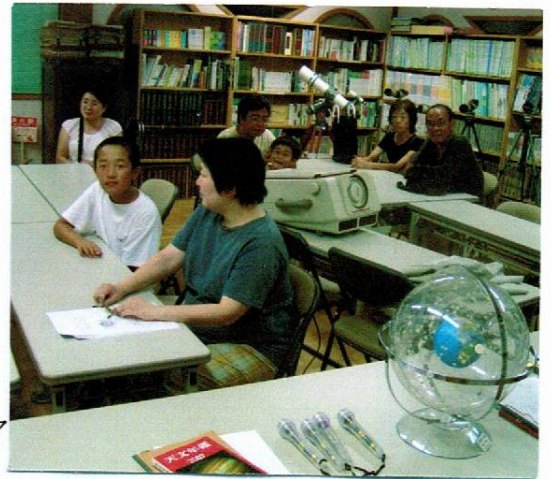
《『夏の星座を見てみよう』》

◇木星がさそり座のアンタレスと並んで！

8月に入って立秋を過ぎたころから各地で「猛暑日」（最高気温が35℃以上の日）が報道され、記録更新がなされているようです。例年8月の上旬、千葉県では好天の続く日が多いのですが、今年も例年のように快晴の日が続きました。行事当日も朝から好天で、気温はウナギのぼりで、開始時刻の午後7時時点でも快晴でした。参加者は、近隣の人達が多かったのですが、中には都市部（車で1時間30分位）のシーイングのよくない場所からの子供連れの熱心な参加者もいて、見える星の多さに驚いていました。例によって、図書室で、太陽系の惑星（特に今見える木星やその衛星）や星座の起源、特に夏の星座について、その名前の由来、位置関係や一等星の距離・特性などについて簡単にお話をし、星座早見盤の使い方の実習をしてから、フィールドスコープを持って外の駐車場に出ました。

最初に、フィールドスコープに慣れて頂くために、木星とその衛星（1610年にガリレオが発見した4つのガリレオ衛星）を確認していただきました。公転周期の短いイオや長いカリストなどの公転運動の様子から太陽を中心とした惑星の運動を発想したと言われている事などを話しました。そして、南の空から照明灯を用いて指し示しながら、さそり座、いて座、やぎ座、へびつかい座、ヘルクレス座やこと座（ベガ）、白鳥座（デネブ）、わし座（アルタイル）の各 α 星を結ぶとできる「夏の α 大三角形」を見つけていただきました。初めての人は、「これが夏の α 大三角形」か、と感動していました。

ここで、七夕の星の物語や宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」などについてお話をしました。この夜は、天の川もボンヤリと見えている感じでした。



◇伊能忠敬の悲願は、^{しごせん}子午線1度の距離を知ることだった？！

次に、北の空に目を転じると、これは見慣れた北斗七星、すぐに見付けていただきました。そこから、目を東方向に転じると、そこには、Wの形をしたカシオペア座があり、その中ほどの二等星が北極星であることと、この星の高度がほぼその土地の緯度になること等をお話しました。ところで、童門冬二著「伊能忠敬」によると、千葉県香取市佐原出身の偉人である伊能忠敬は、51才の時に当時江戸幕府の天文方であった高橋至時^{よしとき}（32才）に師事して暦学を学びました。高橋至時は、大阪の学者麻田剛立^{ごうりゅう}の弟子でした。剛立は、幼い頃から天文が好きで、北極星が動くこと、太陽の黒点観測から、太陽が自転することなどを発見したそうです。伊能忠敬は、常に「自分より優れた者からは謙虚に学ぼう」としていました。そして、子午線1度の距離に異常なほどに興味を抱いていて、地図づくりのための測量を歩測、間縄や量程車などを用いて行ったそうです。そして遂に、**子午線1度の距離は、28.2里**という値を導き出したのです。この値は、その当時西洋で言われていた値と一致していたそうです。忠敬は、子午線1度の距離を知って、地球の大きさを求めてみようと考えていたのでしょうか。

さて、さらに、北斗七星に続くうしかい座のアルクトゥルス、さらに、おとめ座のスピカをつないだ線を「春の大曲線」と呼ぶことなどをお話ししました。北の空では、まだペルセウス座は、上ってきていませんでしたが、12日～13日にかけて、流星群が観測できることや、月末の28日の夕方に月食が見られることなどについて紹介して終りとしました。

翌日、ペルセウス座を輻射点とする流星は、天文ファンを魅了しました。（渡邊美利）

《『トンボの沼のトンボたち』》

観察場所のトンボの沼^{せき}（高田堰）は、広さが約5ヘクタールという大きな堰ですが、その約半分は、ヨシ、マコモ、フトイ、ウキヤガラ、ショウブといった湿性植物や抽水植物が占拠しており、残りの約2/3はヒツジグサのような浮葉植物で覆われています。ヒツジグサの和名の由来は、この花が未^{ひつじ}の刻（午後2時）ころ開花することによります。実際には、午前中から開花するものが多く、



午後に閉花しますが、2～3日開閉を繰り返します。漢名は、睡蓮とか子午蓮とされています。この日観察できたのは、^{きんしゆく}均翅目では、ノシメトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、ギンヤンマ、コシアキトンボ等、不均翅目では、アオモンイトトンボ、アジアイトトンボ、ハグロトンボ等でした。いつもチョウトンボの見られる東屋の西側は、マコモやヒツジグサに覆われて、居場所がないらしく、1頭もみられませんでした。何種類かがまとまって見られたのは、堰の北側の小さな水面のある場所でした。今後は、ヒツジグサ等の一部除去の必要性を感じています。（渡邊美利）

和泉-日在浦だより 子ガメ無事旅立つ (9/1)



海岸清掃作業(和泉浦8/12)

木漂着が続き、市民ボランティアによる海岸清掃が連日続けられました。親ガメの上陸・産卵や孵化した子ガメの旅立ちのため、人間ができる最大のウミガメ保護活動は、海岸清掃に尽きます。

[車両等走行禁止の防災放送]

8月26日には、2番目産卵巣と3番目産卵巣でたくさん孵化した子ガメが海へ旅立ってゆきましたが、3kmに及ぶ和泉浦-日在浦海岸をバギー車が渚線沿いに往復した轍跡が残されていました。車両の走行は子ガメを轆き殺したり、轍の深みにはまった子ガメが匍匐できなくなります。市役所に通報があり、「いすみ市ウミガメ保護条例」に基づきウミガメ保護や、事故防止のため車両乗り入れを絶対しないよう呼びかける防災放送が実施されました。



タイマイ漂着死骸(夷隅川河口左岸 8/13)

や三宅島を通過する経路であるため たどり着いたように思われます。いすみ市近海では、8月13日及び8月25日共に海面水温は28℃でした(ADEOS SST)。原因は不明ですが 受難したのは残念なことです。[森谷 洸(もりや ふかし)]

[順調な子ガメの孵化]

今年アカウミガメ上陸・産卵・孵化について、8月末現在上陸7ヶ所のうち産卵は6ヶ所で、すでに3ヶ所から子ガメが孵化し、無事太平洋へ旅立っています。今のところ産卵巣に冠水被害等はなく、順調に孵化しています。一番遅い上陸は8月26日で、この産卵巣からの最終孵化は10月末と予想されます。

台風4号に伴う大雨で、夷隅川上流域から大量に流竹



子ガメの旅立ち(和泉浦8/18)

[黒潮に乗って北上したタイマイ]

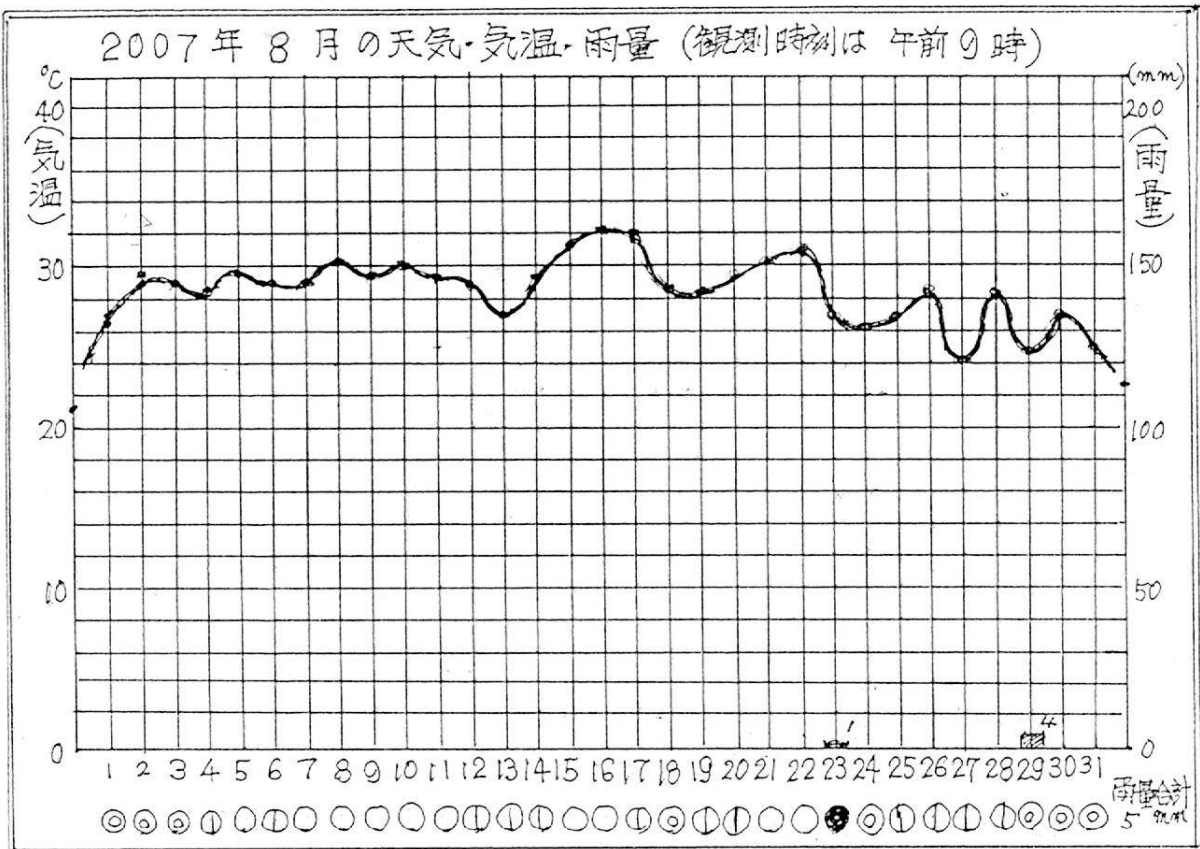
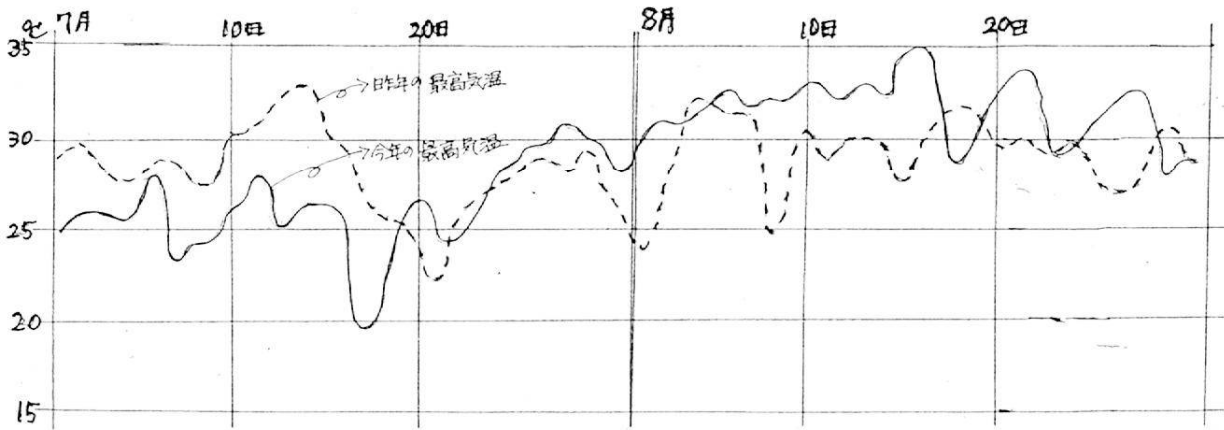
今年は珍しくタイマイの死骸が2回漂着しました。1回目は8月13日早朝 夷隅川河口左岸で渡辺隆夫さんが発見し、2回目は8月25日早朝 日在玉前神社前の海岸で筆者が発見し、いずれも市役所に通報し、観察することができました。夫々直甲長が38cmと50cmの繁殖年齢到達前の個体でした。

タイマイが房総半島の水域に現れるのは極めて稀ですが、今年は黒潮が「非大蛇行離岸流路」となっており、八丈島

◎今、いすみでは???

センターの周囲の水田は、イネ（イネ科）刈りが、ほとんど終り、センターの水田を含めて、何枚も残っていません。異常気象だと騒がれ、イネのできが心配されていましたが、7月の後半から持ち直した天気のために、平年並みの収量と米の質が、何とか保たれたようです。当センターのイネ刈りは、9月9日に予定されています。

今年の夏は、「殊の外、暑かった」ので、データの上から確認するために、昨年と今年の7月と8月の日最高気温をグラフにしてみました。7月の後半から8月にかけて、昨年より暑かったことが、よくわかります。 (芝崎昌彦)



(○:快晴(10日), ⊙:晴(12日), ⊗:曇り(8日), ●:雨(1日))

